

[情報提供]

- 令和8年度 of 取組計画について情報共有（がんピアサポーター養成研修、フォローアップ研修の開催等）
- がん相談支援センター等のがん相談・がん患者サロンの状況、がん診療連携拠点病院等における就労・就職支援の状況について情報共有
- アピアランスケアのフレイヤーについて情報共有

[議題] 第4期奈良県がん対策推進計画の中間評価について

- 以下の2分野について、効果的に評価を実施するため、4つの重点的な【個別施策】に絞り評価を実施。
- 国第4期がん対策推進基本計画の中間評価の手法に倣い、部会内では実行（プロセス）評価、効果（インパクト）評価、総合評価を中心に評価を実施。
➢承認※評価の概要は下記のとおり

分野	個別施策	実行 (プロセス) 評価	効果 (インパクト) 評価	総合 評価	主な委員意見	主な変更点・改善点 ※全分野での共通内容：次期計画策定に向け、より適切な指標や施策について、今後協議・検討していく。
⑥相談支援 及び情報提供	がん相談支援センターの利用促進と相談支援の質の向上	予定通り 実行されている	効果を出 している	維持 すべき	・がん相談支援センター新規相談件数、がん相談利用者数は増加しているものの、分野別アウトカムの「がんと診断されたことによる不安や悩みは何かの相談支援によって軽減されたと思う患者の割合」は未達成である。量的な利用拡大が患者の悩みの軽減に十分結びついているか慎重に評価すべきである。	・質的な観点から評価をするため、【個別施策】アウトプット指標に相談支援の質の向上のための「ピア・サポーターフォローアップ研修受講者数」を追加する。
	小児・AYA世代・家族支援体制の強化	予定通り 実行されている	効果を出 している	維持 すべき	・現在 of 中間アウトカム指標の「がん相談支援センターでの新規相談件数」と「がん相談支援センターの利用者数」は、相談支援センター全体の相談件数、利用者数であり、小児・AYA世代に限定したアウトカム変化を把握できない。	・小児・AYA世代の相談件数を把握するため、【中間】アウトカム指標に「拠点病院等・支援病院における小児・AYA世代の相談件数」を追加する。
⑦がん患者 等の社会的 な問題への 対策	治療と仕事の両立支援	予定通り 実行されている	効果を出 している	維持 すべき	・アウトプット指標は、現在「仕事と治療の両立支援体制のある事業所の割合」のみであり、就労、就職相談の状況を適切に評価する必要がある。 ・治療と仕事の両立支援リーフレットは事業所にも周知する必要がある。治療と仕事の両立支援に関しては、県のがんホームページにリンク等で情報を集約すると良いと考える。	・支援の実施状況をより適切に評価するため、【個別施策】アウトプット指標として、「拠点病院等・支援病院における社会保険労務士による就労相談件数」や「ハローワークと連携した就職支援を実施している拠点病院等・支援病院の割合」を追加する。 ・県のホームページのがんネットならに奈良労働局で掲載している「治療と仕事の両立支援リーフレット」のリンクを掲載する。
	アピアランスケアの充実	予定通り 実行されている	効果を出 している	強化 すべき	・アピアランスケア支援事業未実施の10町村に対し、事業実施に向けて働きかける必要がある。 ・県内でのアピアランスケア相談支援体制の充実を図ることが必要。	・アピアランスケア支援事業の全市町村の実施に向けて働きかける。 ・拠点病院等での「アピアランスケア相談支援体制整備事業」において、取組を推進する。